栫ノ原遺跡

【所　在　地】南さつま市加世田村原字栫ノ原
【種　　別】国指定史跡
【指定年月日】平成９年３月 11 日

栫ノ原遺跡は，南さつま市村原の万之瀬川と加世田川の合流地点にあたる西側の独立丘陵に位置する。縄文時代草創期から中世の山城までを含む複合遺跡であるが，縄文時代草創期が特に重要で，国指定史跡となっている。

本遺跡は，昭和 48（1973）年の発見以来，平成５（1993）年度まで６回の発掘調査が実施された。

丘陵の北側に縄文時代草創期の生活跡があり，約 4,000・の範囲から舟形配石炉４基，集石 22 基，炉穴８基の遺構に伴って 1,000 点を超える土器片や打製石斧，磨製石斧，石鏃，石皿等の遺物が多量に出土した。特に刃部の丸くなった磨製石斧（丸ノミ形石斧）は栫ノ原型石斧とも呼ばれる。丸木舟製作用の木工具とも考えられ，南島とのつながりなどその系譜が注目されている。

縄文人の生活の定住化を示唆する遺構・遺物の発見は，これまでの縄文時代草創期文化の概念を再考するきっかけとなった。